

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時): 人文社会系研究科 言語学専攻 修士課程 1年  
 留学先大学: ケルン大学 留学先所属学部/研究科等: Philosophische Fakultät, Linguistik-Phonetik  
 卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業  
 6.起業 7.その他( )  
 現在の所属学部/研究科・学年: 人文社会系研究科 言語学専攻 修士課程 2年  
 ※氏名・メールアドレス・電話番号は公開しません。

1. 留学先大学の概要  
 ケルン大学  
 大規模校かつ伝統校。ケルン中央駅からも近い。  
 留学生が多く、留学生同士の交流が豊富。学生団体主催のイベントや旅行もある。

2. 留学の動機  
 ・ドイツ語母語話者を対象にドイツ語の音声知覚実験を行い、そのデータをもとに修士論文を執筆するため。言語学科の中に音声学専攻があり、音声学を学ぶのに適した環境であると判断した。  
 ・ドイツ語語学力の向上。  
 ・ドイツの文化に触れ、見聞を深めるとともに、様々な国から来た留学生と交流。

3. 留学の時期など  
 ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2012]年 学部/修士/博士[1]年の[夏]学期まで履修  
 ②留学中の学籍: 休学/留学  
 ③留学期間: 2012年 9月 ~ 2013年 7月 学部/修士/博士[1]年時に出発  
 ④留学後の授業履修: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[2]年の[冬]学期から履修開始  
 ⑤就職活動の時期: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[2]年の[12]月頃に(行った/行う予定)  
 ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[18]単位 留学先で取得し、本学で認定された単位[ ]単位  
 留学後の取得(予定)単位[10]単位  
 ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2014]年 [3]月卒業/修了  
 ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [2]年[ ]ヶ月間  
 ⑨留学時期を決めた理由  
 学部生時代はサークル活動に忙しく、また研究テーマも定まっていなかった。研究テーマとやるべきことを絞り込んでからの方が有意義に勉強できると思ったため。

4. 留学の準備  
 ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
 留学を決めたのは学部4年の12月でした。ケルン大学のホームページから音声学研究所や留学生用ドイツ語コースのサイトを探して見ていました。ただ、周りにドイツ留学経験のある人がおらず、どのような生活スタイルになるのかあやふやなままだったことを後悔しています。  
 とにかくわからなければ(英語でもドイツ語でもよいので)誰かにメールで聞くという姿勢が一番大事だと思います。ドイツ留学のことをブログに書いている人に連絡をとってもよいと思います。また、留学前にどれくらい下調べをして不安を取り除いておけるか、どれだけリアルに留学中の自分の姿を思い浮かべられるかがカギになってくると思います。  
 ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
 ビザの申請は渡航後に行いました。住民登録を終えてから、外国人局へ行って書類を提出しました。  
 手続き自体は何の問題もなく進められましたが、全てドイツ語で、ときどき分からないと怪訝な顔をされました。ビザの取得の仕方はインターネットでも確認できるので、渡航後に行う場合も予め目を通しておくとよいです。  
 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
 渡航前は歯科検診を受けたり、かかりつけ医のもとで常備薬のストックを増やしておきました。また、私は軽~中度の感音難聴があるので、耳鼻科で聴力検査の結果をコピーしてもらい、必要なときに提示できるようにしておきました(そのような機会はありませんでしたが...)  
 ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
 AIUの留学保険に入っていました。  
 ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
 留学も含めて2年間で修士課程を終えるためには、修士最終年度の前年度で16単位を取っておく必要がありました。留学中の単位が何単位分認定されるかわからず、またその届出は留学後ということだったので、留学前の1学期間でその必要単位を全て揃えました。  
 必修・準必修の単位については、単位分割願を提出して夏学期分のみ単位を取得しました。  
 ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
 私が最も準備不足だったと感じるのが語学です。そもそも留学に必要な語学レベルの条件について、指定がなかった("B2レベルが望ましい"という記述のみ)ことに甘え、英語・ドイツ語両方ともに十分なレベルまで達しないまま(そもそも、英語は検定試験などを全く受けず自分の実力を測らないまま)渡航してしまいました。滞在してしばらく経てばドイツ語は研究に必要なレベルまで達するだろうと思っていましたが、残念ながら語学力が足らず、研究は全て英語で行うことになりました。  
 なお出発前のドイツ語レベルはB1でした。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
やはり語学は渡航前に十分準備しておく必要がありますが、語学に関しては①今自分がどれくらいのレベルにあり、②留学に必要な語学力はどれくらいで、③そのためにはどれくらい勉強しておくべきかの3点を明確にして、こつこつと学習しておくのがよいと思います。  
留学全般に言えるのは、十分すぎるくらい下調べしておき、自分がどうその中で行動・生活するかのイメージを描いておく、というのがとても大切だということです。  
出発前に住んでいるマンションを引き払う場合、住民票を地元に移す場合など、留学前日本でしておくことについても、早めに何をしておくかをリストアップしておくともスムーズにいけます。  
日本の食べ物については、ケルン市内にアジアスーパーマーケットが数軒あり、隣町のデュッセルドルフには日本食スーパーもあるので、不自由しないと思います(高価ですが)。  
個人的に日本から持って行ってよかったと思うのは、クイックルワイパーの本体部分(ドイツのスーパーで買うとちょっと高い)でした。

#### 5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

2012年冬学期前(9月)

留学生向けドイツ語コース(B1)

2012年冬学期(10月~1月)

- ・留学生向けドイツ語コース(B2.2)
- ・ドイツ語聴解コース(B2.2, C1向け)
- ・言語学入門(聴講)
- ・音声学・音韻論入門(聴講)
- ・スペイン語(A2:前提知識ある人向け)●

2013年夏学期(4月~7月)

- ・留学生向けドイツ語コース(B2.2)
- ・実験音韻論●
- ・音響音声学●

(夏学期の成績が出ていないため、申請はまだ行っていません)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

- ・履修登録はWeb上のKLIPSというサイト(東大のUT-mateのようなもの)で行いますが、登録できない場合も一回目の授業に出席し、名前と学籍番号を申し出れば登録できることが多いです。登録期間が1学期分で3回に分けられています。人気のコースは1回目の登録フェーズでいっぱいになることもあるようです。
- ・授業(ドイツ語以外)はパワーポイントを用いたプレゼンテーション+資料配布、というスタイルがほとんどです。
- ・どの授業もILIASという学習補助インターネットサイトで、履修者にレジュメや授業で用いるフリーソフト、素材、文献の配布を行っています。また、掲示板の機能もあり、講師との連絡や受講者同士の連絡を授業外でもそこで行うことができます。ILIASはとても分かりやすく、予習復習に役立ちました。
- ・授業についての連絡(課題提出リマインダー、休講通知)は、授業のメーリングリストを通じて学生のメールアドレス宛てに届きます。
- ・授業にもよりますが、入門・導入系の授業では毎回の授業で軽い課題(授業内・宿題)が出ることがあります。
- ・授業中の学生の発言はかなり積極的です。
- ・実験音韻論の授業では、フリーソフトを用いた音声分析、統計ソフトで分析結果の抽出、各自の結果にもとづいてレポート提出(形式についても指定・アドバイスあり)。枠組みがしっかりしているので学ぶ内容に集中できた、という印象です。
- ・講師と学生の距離がとても近く、メールでの質問にも気軽に答えてもらえるのがとてもありがたかったです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

冬学期はドイツ語6コマ、その他の授業4コマでした。ドイツ語以外の授業はほぼ聴講だったので、予習・復習は最低限度にとどめ、ドイツ語に注力していました。

夏学期はドイツ語4コマ、その他の授業2コマで、月曜日と火曜日には授業を入れず、研究のための時間にしました(音声実験も月火水に行いました)。

④学習・研究面でのアドバイス

もちろん興味や関心で授業を選ぶことも大事ですが、留学中、どのような知識をつけたいかという到達点を置き、そのためにどんな授業をとるかを考えていくとよいと思います。

学業について悩んだり、考え込んだりしたときは、ひとりで抱え込むよりも、留学先の友達や授業の講師に思い切って話したり、東大の担当教官と連絡を取り合って解消していくといいでしょう。

私は、自分の研究に自信が持てず、最初音声学研究室の人とコンタクトをとるのがとても怖かったのを覚えています。ですが、何度か会ってアドバイスをいただいたりしているうちに、「このことについては〇〇さんが詳しい」「この内容なら、〇〇さんに協力をお願いしてみてもどうだろう」など、少しずつ人の輪が広がり、研究について理解してもらえ、知りたいことを気軽に教えてもらえるようになりました。滞在最後には、研究室の有志の方を相手に簡単なプレゼンテーションを行うことができ、その内容を来学期以降の教材の一部に使ってもらえることになりました。留学はさておいても、「何をしたいかははっきりしている」「熱意がある」「ダメ出しを恐れない」というのが研究の大原則なのだなあとやっと悟りました。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

想像以上に英語を話す機会が多いです。

というのも、留学生の中には“ドイツ語を学ぶ必要のない学生”が多数を占めているからです。ケルン大学では留学生

向けの英語で開講されている授業も多いです(主に経済学部)。私の場合、家では英語、授業はすべてドイツ語、研究は英語で行いました。

研究も、当初はドイツ語で行う(音声学研究室の方や被験者とのやりとりをドイツ語で行う)つもりでしたが、10~11 月ごろ馬力をかけてドイツ語を勉強したにもかかわらずやはり研究に必要なレベルに到達することができませんでした。そこで、研究は英語で行うことに決め、英語を独力で勉強し始めました。

## 7. 生活について

### ①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

住居は大学の WG(Wohngemeinschaft、シェアハウス)に住んでいました。同じ住居内に、4 人がそれぞれの部屋を持ち、キッチン・ダイニング・トイレ・バスルームを共同で使うという形式でした。私のルームメイトは2学期ともすべて女の子でしたが、男女混合で住む場合もあり、また人数も住居形態によってさまざまなようでした。

家賃は月額 238 ユーロ、ガス・水道・暖房・電気代込です。洗濯は、学生村内の他の建物の地下にランドリールームがあり、洗濯機(1 回約 1.2 ユーロ)と乾燥機(1 回 1.5 ユーロ)を使うことができます。

ちなみに WG は団地のようになっていて、Studentendorf(学生村)と呼ばれていましたが、お互いの家に行き行って一緒にご飯を食べたりするなど、近所づきあいもあり和気藹々としていました。毎週木曜と週末にはダンスパーティーもありました。

WG の契約についてですが、留学許可が下りた後、ドイツ語コース登録、メールアカウント開設などの案内と一緒に、住居契約のお知らせや契約用紙がメールで届きました。(住居:どこに住むかは、向こうから指定されたようです。)

私の場合、最初の 1 か月の家賃振込みと引き換えに契約を結ぶというものだったのですが、家賃を振り込んだにもかかわらずなかなか返信が来ず、問い合わせしてみたところ「家賃の振込みが確認できない」と言われ、最初の数日はユースホステルで過ごしなが、オフィスに直接振り込み用紙を持って問い合わせに行きました。どうも届け出ている住所と振込みの際の住所が違うのが原因だったようで、その場で契約、すぐ入居となりました。

### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ケルンはドイツの中では比較的温暖なほうだと言われていますが、東京よりは明らかに寒いです。9 月でも夜は寒く、半袖で一日中外出することはありませんでした。冬は、積雪は多いときで 10 センチほど、3 月までは寒い日が続きます。総じて昼夜の気温差が大きく、帰国して日本の熱帯夜の暑さに驚いています。

交通機関については、contribution fee(毎学期のお世話賃?のようなもの:200 ユーロほど)を払えばノルトライン=ヴェストファーレン州内のすべての交通機関が無料で使えます。

食事は大学食堂で 2.25 ユーロの定食が一番お得でした。自炊もしましたし、ルームメイト・友人同士でお互いの国の料理を作って振舞うこともありました。自炊の感覚としては、工夫をすれば日本よりも安く暮らせる、といった感じでした。

お金は渡航直前に新生銀行の口座を作ってそこに両親から仕送りを入れてもらっていましたが、上記の contribution fee やビザ申請に必要なこともあり、Kreissparkasse KölnBonn という地元の銀行で口座を開きました。

### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はとりたてて悪いというわけではありません。ただ自転車を盗まれたり、クラブで財布を盗まれたりした友人はいました。基本的に東京で暮らすのとあまり変わりはないように思います。

3~6 月に何度か風邪を引いて、内科にかかりました。最初デュッセルドルフ市内の日本語が通じる内科に通院していましたが、合わないと思いケルン市内の普通の内科にかかりました。診察料は後払い(後日、郵便で振込用紙が届くので、所定の期限までに診察料を銀行で振込み)でした。

家族、日本の友人とも頻りに連絡をとり、スカイプやメールのやりとりをしました。手紙やはがきもたくさん出しました。

### ④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

約 900 ユーロ

学業と contribution fee 50 ユーロ

食費 160 ユーロ

生活用品 145 ユーロ

娯楽・交際費 160 ユーロ

交通費 80 ユーロ(普段はかからないが、旅行の際などの分)

住居光熱費 280 ユーロ

・留学に要した費用総額とその内訳

約 10000 ユーロ(内訳は上記参照)

### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 第二種奨学金(短期留学)、2012 年 9 月~2013 年 7 月まで 11 か月間、月額 5 万円(貸与)

### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

10 月にはオクトーバーフェストに行くため、片道 12 時間鈍行を乗り継いでミュンヘンまで泊 2 日の旅をしました。

その他、ボン、デュッセルドルフ、ミュンスターなどの近郊都市から、ハンブルク、ブリュッセルなどに足を延ばすこともありました。

クリスマスにはルームメイトの一人とともにニュルンベルク・プラハ・インスブルック・ヴェネチア・ボローニャをめぐる旅をしました。

学部時代アカペラサークルに所属していたという話をしたところ、友達からケルン出身のアカペラアーティストのことを教えてもらい、野外コンサートに行きました。

## 8. 留学先大学の環境について

### ①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

WiSo(経済・社会学部)は留学生の受け入れが多いこともあり、バディ制度など充実しているようでしたが、Philosophie(文学部)ではバディやタンドムパートナーを応募しても音沙汰がありませんでした。自分から探さないといけなければ、Facebookなどを活用できるのでさほど手間はではありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

食堂は学部ごとに何か所もあります。個人的には、図書館内のカフェテリアの使い心地が良かったです。

共用PCは図書館やPhilosophische Fakultätのパソコンルームにあります。あまり使用しませんでした。何か所かWi-Fiが飛んでいる場所を見つけて、タブレット端末でメールを読んだり、自分のノートパソコンを使ったりしていました。

利用はしませんが、スポーツ施設も充実しているようです。

## 9. 留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

視野を広げるきっかけになりました。今までは、自分の専門のことだけ知っておけばよいと思っていましたが、一人の人間として生きていくためにはそれだけでは不十分で、どのような職業に就くにせよもっと周りの世界に目を向けなければならないと痛感しました。

私は結局博士進学ではなく就職活動を選択しました。留学前は進学と就活で悩んでいましたが、「全く新しい環境に自分を置いたとき、何ができるか？そこからどれだけ吸収できるか？」という、自分にとって不可欠で、重要な経験を実現するには就職の道が適していると考えようになったからです。

スタートの遅さにめげず、頑張っていこうと思います。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

(対策と言えるかどうかわかりませんが…)私の場合、本格的に就活するのは留学後と決めていましたが、気負わずお試し就活ができるよいチャンスだと思い、今年度も就活サイトにエントリーしたり説明会に参加したりして情報収集をしていました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) 3.公的機関(機関名: )

4.非営利団体(団体名又は分野: ) 5.民間企業(企業名又は業界: )

6.起業(分野: ) 7.その他( )

## 10. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

これまでの自分を振り返り、将来に向けてどのように行動していくかの指針を得たこと、また、様々なことに気づいたという点で、留学は大いに成果がありました。

“成長”に関して、これまでは「成長＝もともといくらあった能力を伸ばすこと」と考えていましたが、この1年間を通しての“成長”は「自分の中で、ゼロだったものをなんとか1に、もしくはマイナスだったものを必死の思いでゼロに」という感じのものであったと思います。

留学に行く前はこんなに自分が無力で無知だとは思いませんでした。たくさん欠点や苦手のある自分を認めつつ、将来どのような人になりたいかを見据えたうえで、研究や語学、その他様々な経験を通して将来への一歩を踏み出すことができたと考えています。

②留学後の予定

12月までに修士論文を提出し、その後就職活動を始めます。大学院は来年3月で卒業ですが、アルバイトをしながら就職活動を続け、再来年に就職することを目指しています。

新しい環境に身を置いて何事にもチャレンジする必要性を感じたので、この道を選びました。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

今までと違う環境に身を置けば自然と成長できることはありますが、その中で何をしたいか、どうなりたいかを具体的に思い描いて行動する方が結局は得るものは大きいと思います。自分の軸を失わず、かといってあまり思い悩んだりせず、楽しんで過ごしてほしいと思います。

ドイツは、食べ物も大丈夫、治安もそこまで悪くはない、現地の人たちは無愛想だけど誠実、と総合的に見れば良いところなので、是非少しの間でも過ごしてほしいと思います。

## 11. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ケルン大学

<http://www.uni-koeln.de/>

ケルン大学中央図書館

<http://www.ub.uni-koeln.de/>

ケルン大学音声学研究所

<http://phonetik.phil-fak.uni-koeln.de/>

ケルン大学学生自治会(大学生協のようなもの?)

<http://www.kstw.de/>

ドイツ鉄道

<http://www.bahn.de/p/view/index.shtml>

DHL(ドイツ郵便の宅配事業?) ドイツ→日本 の荷物送付に関して

<http://www.dhl.de/de/paket/pakete-versenden/weltweit-versenden/laenderseiten/japan.html>



dradio (語学用)

<http://www.dradio.de/nachrichten/>

(※ケルン大学への留学体験記は、上智大学・京都産業大学・天理大学の学生さんで書いている人も多いので、こちらも参考になるとと思います)

③その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



オクトーバーフェスト



クリスマスマーケット